

畑転換で水田雑草の種子量が激減！

主要な水田雑草の埋土種子量は、1年の畑転換により転換前の約40%に減少し、畑転換は水稻有機栽培の雑草対策として有効であることがわかりました。

畑転換のしくみ

⇒ : 雑草量

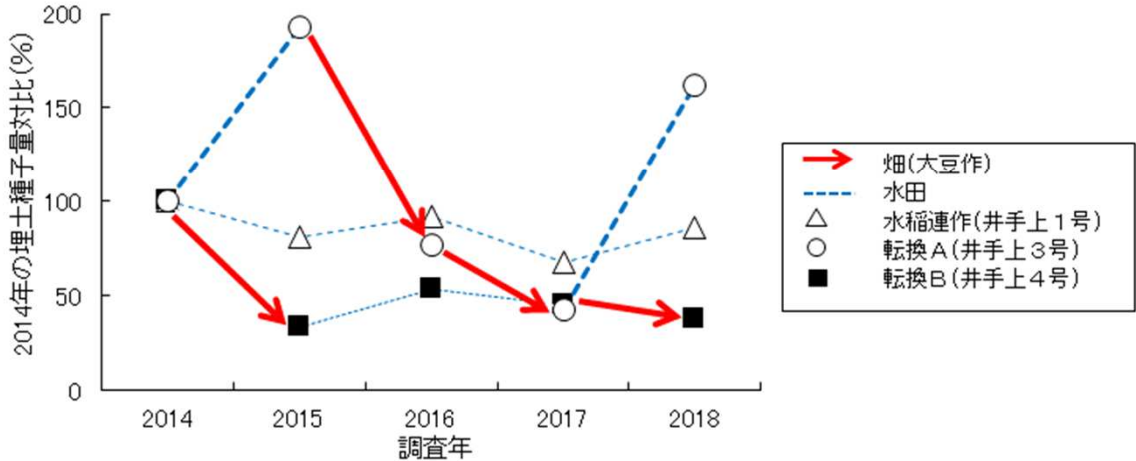
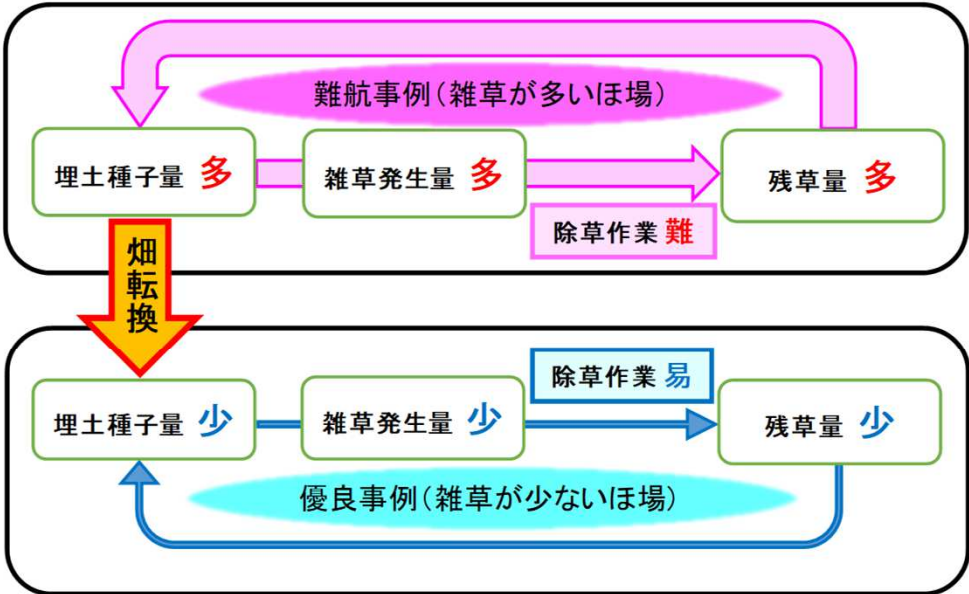


図1 畑転換が水田雑草の埋土種子量の推移に及ぼす影響
 注1)調査年次:2014~2018年、調査ほ場:農業試験場 井手上1、3、4号田
 2)水稻作の除草作業は、乗用除草機で最終代かきから7日ごとに3回を目安に実施。
 畑転換は大豆作で実施し、大豆作の除草作業は、管理機で播種から14日ごとに2回を目安に実施。
 3)調査時期:各年の作物作付後、調査対象草種:ノビエ、コナギ、ホタルイ

水田から畑への畑転換を行ったほ場では、転換後に水田雑草の埋土種子量が減少します。

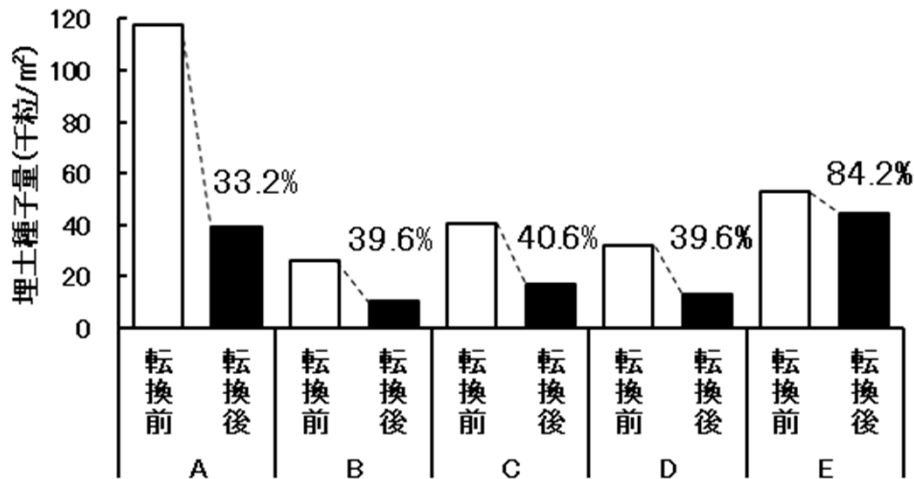


図2 畑転換が転換後の水田雑草の埋土種子量に及ぼす影響

注1)調査年次:2014~2018年、調査ほ場:農業試験場 井手上3、4号田、南部町宮前

2)「転換前」の水稲作の除草作業は、乗用除草機で最終代かきから7日ごとに3回を目安に実施。

畑転換は大豆作で行い、大豆作の除草作業は、管理機で播種から14日ごとに2回を目安に実施。

3)調査対象草種:ノビエ、コナギ、ホタルイ

4)図中の「転換前」は畑転換実施直前の埋土種子量、「転換後」は畑転換実施1年後の埋土種子量。

5)図中の割合は、各事例における埋土種子量の転換前対比を示す。

A~Dの4事例では、畑転換実施1年後の埋土種子量が、転換前の約40%に減少しました。

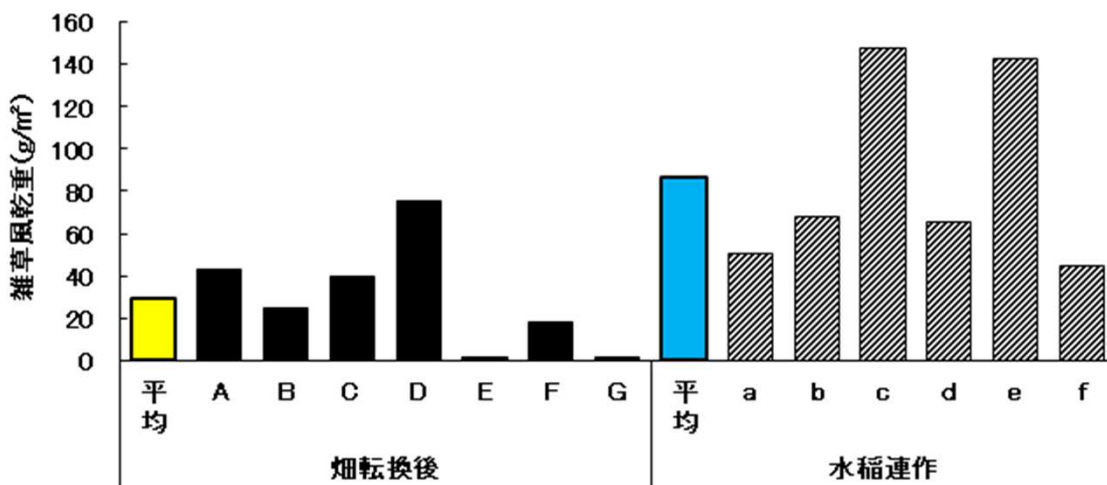


図3 有機水稲栽培ほ場における畑転換が水田雑草の残草量に及ぼす影響

注1)調査年次:2016~2019年、調査ほ場:農業試験場 井手上1、3、4号、南部町天萬、八頭町米岡、鳥取市気高町下石

2)畑転換は大豆及び野菜作で行い、水稲作の除草作業は、乗用除草機で移植後から7日ごとに3回を目安に実施。

3)「畑転換後」は、畑転換後水稲1作目のほ場で、「水稲連作」は、水稲3連作以上のほ場。

4)調査対象草種:ノビエ、コナギ、ホタルイ

畑転換後の水稲ほ場は、水稲連作ほ場と比べて残草量が少ない傾向となっています。

(問い合わせ先)

鳥取県農業試験場 有機・特別栽培研究室 TEL:0857-53-0721

※本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい。